

反シリア・キャンペーンの陰謀

を計るものである。

一九八六年一月一〇日

反シリア・キャンペーン

ペルンは、中東における反帝勢力の主柱的存在として闘うシリアに集中されている。また、レバノンにおけるパレスチナ勢力とシーア派アマル民兵との間での戦闘の拡大、米帝の対イラン秘密交渉の暴露等の諸事件

を計るものである。

ヤンペーン
ヤンペーンは、
・サツチャ一政
国交断絶を機に、
ている。

「テロ」制裁に
やがて立場を転換し
わなかつたEC諸
日のEC外相会議
置を決定した。

は、反「テロ」措置
ににおいての合意が
諸国も、一月一〇
議において、制裁措
は、反「テロ」措置
ににおいての合意が
諸国も、一月一〇
議において、制裁措

の意図があるを示している。た、米帝の即位、同調、サツチへの強い支持を明示している。

ことま
ヤー
座の
目次
反シリアル
反シリアル
日本赤軍
激動の中

二 レバノンでの戦闘の拡大

も、この反「テロ」キャンペーンと一体のものとしてある。それは、帝国主義によるシリア包囲、孤立化をめざしたものとしてあり、それを軸に、中東における反帝勢力の弱体化が、ギリシアを除くEC諸国は、反英帝・サッチャー政権は、緊急外相会議を召集し、EC各国に対しても、英帝・サッチャー政権の態度への支持と、経済制裁への同調を求めた。

存在するものの、このヒンダウイ事件に関しては、モサド（イスラエル諜報機関）の策動という要素が色濃くあつたために、同調しにくかったのである。それでも、英帝・サツ

二 レバノンでの戦闘の拡大



第 18 号

発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL. (03) 291-5533
編集 J. R. A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費 20000円

ヤー政権は、米帝とも共同し、EC内での合意を作り上げて行った。ギリシアのみは、「テロ」と民族解放闘争の区別を主張しEC外相会議声明への署名を拒否したが。

目次	
反シリア・キャンペーンの陰謀	1
シリアの反論(資料①)	4
反シリア・キャンペーンと味方陣営の反論(資料②)	13
日本赤軍声明	18
激動の中東ドキュメント(1986年10月2日~11月9日)	18

文庫の仕事で多くなるを得ない立場におかれていた。シリアのほうも、それを考慮して、レバノンでの米人質釈放のための役割を果たしている。今回の暴露で明らかになつたのは、米帝が、シリアの存在をぬきに、人質を釈放する条件を作ろうとしていたということである。次に対イラク戦争で米製兵器のスペア・パート不足に悩むイランに対し、スペア・パートの供給を行うことにより、イラン－イスラエルが結びつけば、アラブ世界において、シリアは、アラブ民族主義に反する立場にあることを印象づけることになる。これはアラブ世界において、シリアの孤立化を計ることになるという点である。すでに、イラン－シリア間では、石油代金の支払いをめぐって矛盾があり、シリアの側は、イラクへの接近姿勢をみせることにより、イランを牽制しようとしたこともあつた。米帝にとっては、単に米人人質釈放の問題にとどまらず、シリア孤立化へ向けた重要な意味をもつ展開だったのである。

四 シリア包囲

中東情勢全体において、アラブ民族主義の分解が進行している。一つは、エジプト、モロッコのように、米帝の下で生きのびようとする諸国である。第二は、ヨルダン、サウジアラビアを含むGCC諸国のように、建前はアラブ民族主義だが、実体は明確な親米・親シオニストの立場（イスラエルとの共存を意味する）に立つ諸国である。この潮流は、アラブ民族主義総体を親米・親シオニストに転換させることをめざしているといえる。第三が、シリア、リビア、アルジェリア、南イエメン等の反帝・反シオニズムの立場に立つ諸国である。この潮流のなかで、シリアは諸国が無視しえない位置にある。そのことにより、米帝および帝国主義諸国の中東支配にとつて、シリアはアラエルとの力関係において、中間的立場にしており、アサド政権の政策は、シリアは、ソ連の強力な支援を受けており、アサド政権の政策は、

四
シリアル

居間のエミミーもあるケ帝国主義諸国にとつては、リビアのようにには攻撃しにくい国であった。また、シリアは、パレスチナ解放闘争のみならず、アラブ解放闘争全体の後楯でもある。こうした根拠により、帝国主義は、自らの支配貫徹のために、シリア政権の転覆、孤立化、弱体化を必要としていた。

勢力とアマルとの戦闘の拡大は、両勢力を対立させることにより、イスラエルの安全を確保するにとどまらず、シリアに対する策動としてある。レバノンにおける不安定な状況の拡大は、アラブ民族主義内でのシリアの政治的位置を低め、シリアがめざすイスラエルに対する戦略的均衡作りを阻害するためなのである。そうして、米帝は、シオニストの軍事優位をてこに、アラブ全体への影響力を強化せんとねらっている。シリアとイランを分断せんとする策動も、また、同じ意図である。

米帝は、今年三月、四月と、二度にわたるリビア攻撃を行った時点においても、主な目標をシリアへの牽制においていた。リビア攻撃そのものは、米帝の中東支配戦略からみた時、さほど重要なものではなかったのである。米帝は、一貫して、シリアを狙っていた。今回のような事態は、対イラン秘密交渉が行われた八五年秋以来計画されてきたものであろう。

シリアのアラブ・バース社会党政権は、困難な状況におかれているがこうした攻撃を反撃しつつ、戦術的にはアラブの中間勢力をひきつけ、

とくに、現在の、パレスチナ勢力とシーア派アマル民兵の戦闘は、両者が対シオニスト戦において重要な役割を果たしてきた分、敵シオニスト・イスラエルに漁夫の利を与えるものとしてある。

この戦闘に対しても、シリアは、パレスチナ勢力とレバノン勢力間矛盾解決にむけ、PNSF（パレスチナ民族救済戦線）とアマル、およびレバノンのイスラム、左派指導者の間での調停工作をくり返し行ってきた。今回の戦闘の発端は、アマルの二ヶ月に及ぶ南部パレスチナ・キヤンプ包囲封鎖という事態下、アラファト派、反アラファト派、中間派問わ

の様相を呈している。

シオニストは、この情勢を利用しパレスチナ勢力とアマルを含むレバノン勢力の分離・対立を煽りたてようとしている。つまり、パレスチナ勢力に限定した空爆等をかけ、秘密交渉なるものの存在をほのめかすことににより、パレスチナ勢力が反アマール敵意をつのらせざるをえないようにしてしまっているのである。そして、それは帝国主義の反シリアル・キャンペーンと一体のものとして、シリアルの立場を弱めていくためのものとして存在している。

アマルは、パレスチナ勢力（とくにアラファ特派）のキャンプ内武装

識するレベルへと、エスカレートさせてしまっている。もちろん、パレスチナ勢力の一部には、こうした見解に同調せず、「イスラエルの闘いを、アマルと共同して展開する」と、これが解決の道である」という立場に立つ部分もある。

反帝・反イスラエル陣営の対立に對して、シリアのみならず、リビアも、この矛盾解決の役割を果たしている。リビアは、パレスチナ勢力の立場支持という側から仲介に努力しており、イランもまた、対イスラエル戦の強化という立場から、仲介に入っている。イランは、レバノン内シーア派のハジビッラーと同

三六帝の文、ニシキ和歌

三 米帝の対イラン秘密交渉
一月四日、イランのラフサナンジヤニ国会議長は、米帝がレバノンで捕えられている米人人質釈放のために秘密交渉をもちかけてきていたことを暴露した。米国内では、これがレーベン政権への批判をうみ出し、大問題となっている。この対イラン秘密交渉の意図をとらえておく必要がある。

との戦闘と、複雑に錯綜する矛盾故に、安定への道は、まだ遠い。シリアは、レバノンの安定、それによる反イスラエル戦内におけるレバノンの位置強化を求めていた。それによつて、イスラエルとの戦略的均衡を作り出そうとしているのである。レバノン内矛盾は、半封建的社会基盤を背景にしたものであること、パレスチナ勢力が存在すること、さらには、シオニスト・イスラエルが南部レバノンを占領しているという要素、等々、容易に解決されるもので

ずパレスチナ勢力内に、アマルに対する感情的怒りがたまつていったことにある（同キャンプ近くで、アマルのパトロール隊が攻撃を受け、アマル民兵が負傷したこと、キャンプ内に重火器が貯蔵されていることにアマルの側としては、怒りと不信を持つていたのだが）。南部での「キャンプ戦争」は、常に一触即発状況にあったのである。キャンプ包囲解除の一〇月二二日、戦闘が再開され拡大の一途にある。パレスチナ勢力は、ベカヤに駐留する勢力を含めて、

力強化に対し反発しており、八二年以前の状況へとパレスチナ勢力がもどろうとする動きに反対しているのである。

パレスチナ勢力の一般的な主張は「アマルがイスラエルと秘密交引きをし、パレスチナ武装勢力の存在と対イスラエル交戦権を奪い、レバノン南部とベイルート南部をアマル・カントンにせんと野望している。これに対する正義の闘いである」というものである。アマルとの戦闘を、反帝・反シオニスト勢力内の矛盾と

ーの立場をとっている。ハビヅラ
ーは、アマルの「キャンプ戦争」に
反対し、反シオニスト占領闘争を闘
うことを通して、矛盾の解決を計る
という立場をとっている。シリアは
アマルとP.N.S.Fの同盟者という立
場をとり、レバノンの安定、対シオ
ニスト戦略均衡建設をめざす分、両
勢力のバランスをとろうとしている
「キャンプ戦争」に対する三者の立
場は、統一されていく方向にむかっ
ており、パレスチナ勢力対アマル矛
盾は、そうした方向のなかで解決方

取り、イスラエルに強制連行しました。この時も、乗客は尋問、その他さんざん屈辱を受けたものであります。シリア政治代表団も同じ扱いを受けました。

さかのぼってみますと、六八年には、イスラエルは、ベイルート空港で一三機の民間機を破壊しています。七三年には、ペイルート市内に部隊を派遣し、三人のパレスチナ人リーダー（うち一人は、著名な詩人のカマル・ナセルですが）を暗殺しましたね。

スイス人のバーナドット卿暗殺も忘れられません。彼は、スイスの赤十字代表をつどめており、国連総会の承認の下、ソ連、中国、英、仏四カ国から推されて、パレスチナ問題の和平作りの任にあたつておりました。確かダン・グウェルツマンという米国記者であつたと思いますが、イスラエルのエルサレム・ポスト紙とのインタビューで、この人が言うには、五六年にシャミルから直接聞いた話として、シャミルは、「ショテルン」ギャングの二名の仲間と共に、バーナドット卿暗殺の命令を受けたということです。その仲間の一人は、ナタン・ムーアだということ

アーレがヘラルド・トリビューン紙とのインタヴューで、彼がテロル活動を展開した三人組の一人であること暴露しています。標的の一人は、時の英國首相、アンソニー・イーデン氏まで挙げられていたと、このムーアは言つたのです。

イスラエルは、英國國務相モイシン卿をカイロで暗殺しました。さすが、これには、シオニズムの支持者として鳴らしたウインストン・チャーチルも怒つたものです。

シオニズム支持者であることも忘れて、シオニストはナチ張りの強盗どもだと攻撃しておりました。

五四年には、カイロで妨害活動を展開し、エジプトが非難の的になるように画策していました。当時、この件は、「ラヴァン・スキヤンダル」として有名になつたものです。この事件に關した文書のなかには、イスラエル軍諜報部がエジプト内のイスラエルテロリスト網に対して送つた暗号メッセージと、エジプト英が合意に到るのを妨害する活動展開をせよ、

動の背後にいることを悟られぬよう」。そして、攻撃目標を規定しているのですが、文化センター、経済施設、在エジプト英國使節および英國市民の所有車、それから他の標的を含むこととされておりこれらに対する攻撃が、当初の目標を貫徹するものとされていました。この指令は、當時未だ国有化前であったエジプト運河破壊の可能性をエジプト内のスペイ共に問い合わせていました。もちろん、このスペイ網が検挙されたため、指令は実行されませんでしたが、英国民も国際世論も、シャレットが「回顧録」のなかで展開しているのを読んで、眞実を知るに到るわけで

の都市にある同委員会の事務所に爆弾をかけており、JDL自身がこれらの活動の責任を宣言してもいます。

イスラエルが犯したテロルのうち、若干例を挙げてみましたが。ところが、米国は、テロル支援国家としてイスラエルを挙げているでしょうか？ それどころか米国は、八六年二月に起こった民間航空機乗つ取り非難決議（国連安保理）に対して、拒否権を発動する始末です。

こうした諸々の問題を全体としてみた場合、今回の米のシリア非難が、米国独自の政治決定であると言えるでしょうか？ それともイスラエルのヘゲモニーの表現と言つたほうがよいのでしょうか？

1986年12月31日 第18号 月刊 中東レポート

五 パレスチナ革命と現情勢

こうした帝国主義、シオニズムによる構造的な反帝勢力に対する包囲のなかで、パレスチナ勢力も、試練に直面している。P.N.S.F.の主要構成組織であるP.F.L.P.は、P.L.O.再統一の方向に向け、アラファト派と共に交渉を開始している。他の勢力もそれに伴う方向にある。現在、エジプト、ヨルダンが進めているP.L.O.ぬきのパレスチナ問題の「解決」方向に対し、P.L.O.を統一していくことは、パレスチナ革命勢力の反帝との関係を改善し、より明確に反帝の重要なステップとなるだろう。しかし、アラファト派自身が、シリアルの立場で展開していくことが必要とされている。

そして、レバノンでの戦闘の拡大は、いかなる理由があるにもせよ、停止しなければならないだろう。パレスチナ解放の闘いにおいて、レバノン人民との共同は、重要なことであり、また、アマルは、半封建的其盤に立脚しているとはいえ、レバノンの人民的勢力を代表する組織の一

資料①

シリアの反論

（タイム誌）

一、アサド大統領インタビュー

一九八六年一〇月一四日公表

問
…シリアは、この間、テロ活動に参加しているとか、テロリスト組織を支援しているとか、非難されおりますが、また、ロンドンでも、近く裁判が始まることになります。裁判でシリアが関与を問われるだろうと考えられます。これについて。

答…そうした非難の矢面に立たされではいますが、全く気にしておりません。

ませんね。なぜなら、それらは本当に基づいたものではないからです。この際言及しておくと有益と思うので、言つておきたいことがあります。つまり、米国のある人士やあるグループが、このシリアル非難キャンペーんを煽つてゐるという事実ですね。しかし、私達はこれは純粹に米国の政治的意図であるとはみなしておりません。むしろ、シオニストの意向を体現するキャンペーンとみなしています。実際、米国のみに関連したことではあるとすれば、過去何回も多くの米国国民の命を救助したことのあるシリアに的をしほることはなかろうと考えるのが、当たり前でしよう。本当に肝心の問題が米国の自由意志と國益に関しているとすれば、シリアに対するテロリスト非難など起こらないはずなのです。反面、イスラエルは、もう何十年間も、全世界の目前で、シリアそして他のアラブの土地を占領してきたのです。さらに、問題が米国に関するものであるとしているのも、もう何度もテロル攻撃を受けました。シリアに対し、テロリスト非難を浴びせるのは、おかど違いますね。米国自身、シリアがど

んなテロル攻撃にさらされてきたから。か、よく知っているのですから。もし、このテロル非難、もしくは、非難する決定を米国が下したのなら、この長いイスラエルによるテロルの歴史のなかで、イスラエル非難もまあ少なくとも一回くらいはやるべきであつたでしょうに。事実、一九五四年には、イスラエルは初のハイジャックを行い、シリア民間航空機でしたが、イスラエルに強制連行した上で、乗客を尋問する、侮蔑する、等々、ぶん屈辱を加えたものでした。また、七三年には、リビア民間機のボーイング七三七を撃ちおとし、乗っていた多くの人々を皆殺しにしたものです。当時のリビア外相のサラハ・ブワイシール氏そして乗組員は仮人でしたが、彼ら全員も殺されたわけです。同年ペイント国際空港を飛び立ったイラク航空機も、イスラエルは乗つ取っています。同機は、イスラエルに強制連行され、乗客が尋問を受けています。この時、イスラエルは、パレスチナ人捜査のためであると主張しました。それから一九八六年には、シリア政治代表団も搭乗していたリビア機を乗つ

するものです。しかし、この世にそんなことをできる勢力は存在しません。私達は、略奪された権利を奪還する点にかけては、取引きもしないし、妥協もしません。なぜなら、それが神聖犯すべからざる権利だからです。

ともかく、シリアの領土からはテロル活動はなされていないですね。シリア人、または他の国籍の人には限らず、レバノン内のキャラブの数カ所をなぜ閉鎖しないのかという問についてですが、シリアは、レバノンのための国際警察でありますから。確かに、シリアは、レバノンにもう一〇年以上も入ってきましたが、レバノンの内政に対しては、いかなる権威も行使したことではないのです。レバノンのミリシアに対して、また、数も多くあるようですが、干渉したことはありません。私達がレバノンのミリシアへの干涉のためでもありませんしね。レバノン内には、全てのレバノン組織、パレスチナ組織がいます。なぜ、私達シリアがレバノンで誰かを攻撃したり、どこどこの組織、またはキャンプを捜して攻撃をかけ、そのためにシリア兵を犠牲に

理解できません。誘拐された人間救出のために時時、シリア軍が犠牲を払うことはありました。シリアが全世界の救援のためにレバノンに派兵していると期待するのは誰がみてもちとおかしなことでしょう。我が（アラブ）人民のために、そしてイスラエルのテロリズムに対しても闘うという大義のために、シリアはレバノンに入っているのです。また、レバノン内戦終結に向かって、そして、レバノンの国民和解が有効なレバノン政府樹立に到るまでシリアは、レバノンに残るつもりです。したがって、レバノン人に對して行政的権力をもつものでなければ、執行する筋合いでもありません。レバノンの行政権力はレバノン中に存在し、レバノン警察、レバノン国軍もレバノン中に機能しているのですから。ですから、むしろ私のほうが尋ねたいくらいですね。レバノンからスタートした、いや、スタートしたとされている行動をシリアが阻止せよと言われているわけですが。そう主張する当人達は、それができなかつたのに。米、伊、仏

英、各々レバノンにいたのですし、その時、なぜ阻止できなかつたのでしょうか？

問　…レバノンにおけるシリア軍駐留について言及なされました、イスラエル軍も駐留しておりますね。最近、イスラエル－レバノンの国境地帯についての保安上の合意を作ろうと、イスラエルが提案しております。戦争の可能性を削減し、安定をかちとるために、そうしたこととは可能だと考えておられますか？

答　…イスラエルは、国連安保理決議四二五を実践し、国連軍の任務遂行をさせるべきです。国連軍は、レバノン国境に沿って配備され、べくして入ったものであり、国境からなるかなたのどこかに展開している筋合いではありませんから。

国連安保理、そして総会レベルですら、イスラエルは非難されています。UNIFIL攻撃問題との関連でも、非難されているわけですが、UNIFILの任務貫徹を妨げているのがイスラエルならばこそです。

十分な確信があるところとまでは

問　…そのUNIFIL攻撃問題についてもう少し。UNIFILを攻撃したのは、イスラエルだけではなく、ハジビラート、アマルカルガ、若干、攻撃したと聞いておりますが。

答　…UNIFIL軍の任務遂行をイスラエルが妨害しているという点について、言及したのですが。なぜなら、もしUNIFIL軍が当初の指揮通りの任務地に配備されないとしたら、自らの任務を完全に、または、部分的にでも、果たすことはおぼつかないからです。UNIFIL攻撃をイスラエル以外もやっている、いないについては、別の問題でしょう。私達はUNIFILに対する攻撃については、それがどの組織であれ、弾劾します。そして、UNIFIIL攻撃に出るようなレバノン組織としては、その点で、意見を異にしています。そうした攻撃は、レバノンにUNIFILが展開したら、ずいぶんと安定するだろと思つてあります。そうなつたら、レバノン当局にとつても、大助かりでしょうし。

答　…前回に對して、シリア非難は事実に立脚していないから、シリアは気にしているないと、回答しましたね。イスラエルのテロルをあれこれ列挙したのも、だからシリアが同じことをやつてもよいという意味ではなく、シリアは、そのようなテロルと全く関係がないといふ点を言わんがためなのです。それでしょか？

にします。ある人間が、シリアルの援助を受けたとロンドンで主張し他のもう一人は同様のことをイタリアで主張しているそうですが、これが、何ら確証のない言い分であるという点に、あなたもきっと異存はないと思います。物事を客観的に捉える人間なら、それらが嘘の申し立てであり、どこかの諜報部が（第一に挙げるのはイスラエルの諜報機関ですね）背後にいるという結論に到るのが論理的判断であると考えるでしょう。なぜなら、それらの件で最も利益を受ける位置にあるという点から判断して、この結論は、イスラエルの常套手段として先述したテロルのやり口、例えば、エジプトが反英活動をしていると思わせるための

す。そういう場合、イスラエルが乗つ取り犯であることは、誰も否定しえないのであります。また、一〇〇人の乗客を乗せたりビア旅客機をイスラエルが撃墜し、仏人クルーザエルは、この犯罪を否定できません。つまり、私の例証は、事実に立脚している分、誰も事実まで否定はできません。そして、他の出来事についても、同じように、事実に即して検討せねばなりませんまい。

米国記者との会見で、シャミル自身が、バーナードット卿暗殺指令を下したことを認め、「シュテルン」ギャングの別のリーダーの一人が、自分と他に二人（そのうちの一人がシャミル）で、テロル舌

立証するよう、挑戦します、私達は。私達は、イスラエルがどんな力量を有し、どんな勢力から支援を受けていようと、イスラエルが私達から奪い、かつ占領していれる土地を奪還するために、イスラエルに対して闘争するよう、呼びかけています。被占領地から追い出さるべきイスラエルは、ヨーロッパやアメリカにあるのではなくアラブ地域に存在しています。私達の対イスラエル占領闘争は、この地で、つまりアラブ地域、アラブの土地で展開されていますし、ヨーロッパやアメリカで展開されているわけではありません。

シリアに対する（事実無根の）言いがかりは、シリアの反イスラエル占領争絡線を変更させんと

のです。しかし、それは、それとしまして。現在シリアはテロル支援国として非難されているわけです。これに対しても、相手方も同じことをやつたのだと言つてことをすまそうというお考えは、大統領にはなかろうと考えます。ロン・ドンで逮捕された人間は、自分の勝手な意志ではなく、シリアの擇肢を受けてやつたのだと主張して

して、米国政府が、テロリズム一般に対してもる態度と、シリア非難の時と、基準が違う例として、イスラエルのテロルの例を挙げました。それに、イスラエルのテロルを言う折には、あなた方が後で参照できる歴史的文献に基づいて話したわけですし、文書の一枚もない声明などについては、ふれてもおりません。

妨害活動、つまり「ラヴォン・スキャンダル」の件ですが、比較してみますと、とくに真実なのではなかろうかと思えます。あの時、イスラエルのスペイ網が検挙されなかつたら、一体、エジプトの無罪を誰が信用したでしょう？

私は、誰もが認める事実について、例えばイスラエルが飛行機を乗っ取り、イスラエルに連行した

動をあれこれ計画した。しかもそのなかにはアンソニー・イーデンの暗殺計画もあつたと主張する場合、これらの言い分は、「本当にそうか?」という疑惑の対象にされるものでしようか?

あちこちで何やら言われていることに關しては、米、伊の、そして米、伊と共にしている他の国の業報機関に対する、いつ、どこで、

ら、この件でシリアが関与しているとする証拠など誰もみつけ出せるはずがないと、私は申し上げて いるのです。

もしも、テロルが私達の大義に 有効であると信ずるなら、私達は、 テロルに訴えたでしょ。私達は、 誰も恐くありません。巨大な力を もつたあの勢力がレバノンに存在 していましたが、私達は恐れませ んでした。イスラエルも、いつも 私達を脅してきましたが、恐くあ りません。テロリズムはイスラエル の利益にはなることがあります。でも 私達の目的には沿いません。です から、私達は、テロルに反対しま す。シリアのこの立場は、米、イ スラエルの諜報部および英、伊の 諜報部が十分承知しているものと 考えて、います。

向こうの人は、どんな背景がありますか？

…後日、この人間にについて調べた結果、次のことがわかりました。彼は、ヨルダン人で、ヒンダウイという名前だそうです。ロンドンのあるアラブ紙で働いていたとかで、去年、シリアに一回来ていました。その時、ヨルダン旅券が期限切れだが、ヨルダン当局が更新してくれないと言つていました。シリアル券発給を受けたいとのことでした。その要請に応えていましたが、アラブ各国では、よくあることです。ヨルダン旅券発給を受けているシリアル人が何百人もいるし、サウジ、または他の国の旅券をもっているシリアル人も何百人といいます。シリアル人に限ったことはありません。生まれた国以外の旅券をもっているアラブ人は、多数いるのです。

当時、シリアル・ヨルダン関係は良好ではありませんでした。現在は、御存知のごとく、正常化されていますが。

ところで、その新聞社には、シ

リア旅券をもっているヨルダン人がもう一人いるそうですし、他の旅券をもっているアラブ人記者が数人います。ともかく、彼は、パスポートを入手するや、どこかへ出発してしまいました。私達が後で知ったことは、彼の行動範囲はきわめて広く、ロンドン界隈に限らないのだそうです。

…どうも、そのようですね。
吉 同じ…大統領とイランの関係の良好さ
が言われておりますね。もし、イ
ランが勝利し、イラクの領土のか
なりの部分をイラン占領下におく
ことにでもなった場合、これは、
シリアには都合のよいことでしょ
うか？

吉 イランは、もう何度も断言して
おりますよ。彼らは、イラクの領
土のうち一フィートでも占領した
いなどという野心はないのです。
また、イラク領のどの部分をも併
合するとか、イラクをコントロー
ルするとか、そんな野心でやって
いるのではないと、イランが断言
していますね。この点については
何度も声明や宣言を発表してもお
ります。イランに侵略し、イラン
人を殺したイラク政府との紛争で
あると、イランは信じているわけ
です。

私達は、ですから（イランがイ
ラク占領、併合、コントロールの
野望を持っているのではないかと
いう）この点に関しては、何も心
配していません。イランに言わせ
れば、もしイランが勝利したら、
イラク人民自らが自らを支配する

問　ロンドンの件と、ローマ空港の件につき、再び、イスラエル諜報部が背後にいると分析するのが論理的であるとの御説ですが、イスラエルがイスラエルの飛行機を爆破する信じておられるのですか？

答　・イスラエルの諜報部は、イスラエル国内にあるだけではなく、共同対象組織でもあるという点、これを指摘したいですね。

次に、私達の結論によれば、イスラエル諜報部は、飛行機の具体的な爆破を計画したというより、爆破前までの作戦に留め、現在（反シリアル）キャンペーンを張つているごとく、それを政治的に利用せんというものであったでしょう。あの作戦がどうマスコミで宣伝さ

理論的には、奴らは飛行機の墜落を計画し、実行プランを作ったわけです。しかし、実行プランのほうは、飛行機に乗りこむ直前まで、すなわち、アタッシュケースを持った女性がそのアタッシュケースをイスラエル（航空）のセキュリティに渡す段階で終了していました。新聞で読んでわかったのですが、アタッシュケースを運んだ女性は、他のかばん類とのアタッシュケースを別にしていましたね。つまり、アタッシュケースは機内持ち込みにすると言い張つたので、イスラエルのセキュリティ係が受けとれたわけです。

ニザール・ヒンダウイに利用されたマーク・フィーさんのインタヴュによると、

オロオロしながら、一〇分の一〇分のくらい、荷物検査のその場所に、立ちんぼうでした。この間、婦人警官らしい人が二人、私のカバンから出した衣類を調べていました。次の点も指摘したいと思います。これで、得をするのは誰かという点ですね。シリアは、何か得るものがあるでしょうか？　また、イスラエルが、この件から得る利益は？　シリアにしたら、何も利益はありません。飛行機一機を爆破しても、イスラエルの終末にはならないのですし。飛行機を空中爆破させたら、イスラエルに対する勝利、そんな風な考え方は、私達にはないのです。それとも、イスラエルの民間機を爆破したら、世界に向かって、シリアが誇らしく思うでしょうか？　シリアは国家です。國家が行うことの全ては、政

ラエル機乗っ取りに失敗した乗っ取り犯に対し、一定の立場をとりました。作戦の失敗は予め計画されていたという点は、既に述べました。シリアが本当にその作戦に関係しているなら、英の法廷でその件の被告が裁かされることにはならなかつたでしよう。乗っ取り犯は、作戦後、ロンドンのシリリア大使館に来て、シリアと共同していると館員に告げました。確かに、館員にとっては寝耳に水で、シリリアの保安当局に問い合わせたところ、その人間を外に出すよう、もし拒否するようなら英警察を呼んでもよいとの指令を受けたのです。そこで、件の乗っ取り犯は「覚えていろよ」と叫んだそうです。私達は、自らの確信と行為とを完全に統一させています。ですか

アマルは、UNIFIL攻撃の主体ではありませんよ。私が主張したのは、UNIFILの任務展開妨害により、イスラエルが、UNIFIL攻撃条件を作っていると
いう点です。こうした攻撃はシリ
アの非難するところであり、レバ
ノン中の勢力がそれを承知してい

れたかをよく覚えている人なら誰でも、イスラエル諜報部、または同様の諜報部、もしくは、イスラエル諜報部の共同主体こそ、実は黒幕だということが結論づけられると思います。なぜなら、あの作戦はしかけられたもの、しかも、作戦としては一定の失敗を計画してあるもの、そういう作戦であつて

ハンドバッグとカバンのX線透視検査はパスしました。次に、手荷物検査で、カバンの中身を出して調べてもらいました。「どちらに？」と質問されたので、「休暇なんですよ」と言ったとたんに、カバンは別室へ運び去られてしまつたのです。

治目的に基づくものです。そんなことをやるとしたら、シリアはどういう政治目的に基づいているのでしょうか？たとえ失敗、または成功するにもせよ、そんな作戦展開をしても、シリアには何の利益にもならない、これは、誰がみても明らかのことだと思います。

問：米国の納税者がアラブ嫌いたちの間ではあります。どちらかをひいきにする、しないの問題でもありません。ただし、米国の納税者にとって、イスラエルは友邦国であり同盟者なのです。米国の納税者は敵に包囲された世界でイスラエルが延命するには米国があらゆる援助を与えねばならないと信じているわけです。まあ、これがまちがいはないのかもしれません。米国の納税者が、米国の援助を受けなくともイスラエルがやっていくと確信したら、大喜びで、別の方間に援助をふりむけるでしょうね。

答：米国の納税者が事実を知るうえで、マスコミは、ある役割を果たすことができます。もちろん、書誌のタイムも、その役割を果たせ

問　人質問題は移行させて頂きます
と、過去、大統領は、レバノンから
の、人質釈放に尽力なされていま
す。現在、まだ釈放されていない
人質の釈放については、どのよう
にお考えなのか、また、どのよう
な障害があるとお考えなのか、聞
かせてください。

する個人たのでは、テロリズム。
ばわりされようと、または、何と
ラベルを貼られようと、全く意に
介しない連中です。ですから、今
米当局が展開しているやり方は通
用しないわけで、別のやり方を捜
すことでしょうね。

実際、私達の努力が実を結びか
けたとたんに、水泡に帰したとい

米国内では、誘拐は、犯罪行為です。しかるに、大統領は、誘拐犯をテロリストよばわりしても何の役にも立たぬとおっしゃります。米国は、国家なのですから、国家としては、どこかの実業家と取引を論ずるようには、テロリストと交渉するわけには参らないわけです。どのようにして、誘拐犯と対応したらよいとお考えですか？

答　誘拐は、どこの国でも、犯罪であり、米国に限った規定ではありませんよ。現在の中心問題は（犯

方に對して公正に対応していくと
いうことになります。ところで、
なぜ米国の納税者は、イスラエル
には数十億ドルを与えるのに、ア
ラブには同額を与えないのでしょうか。
ある人をひいきにし、ある
人をひいきにしないのは、なぜで
しょう？ 別に米国政府の役人に
ついて言っているのではなく、一
般の納税者についてですが。

る力をもつております
あり、安全を必要とするのは、ど
つちなのか、これを理解するには
タイム誌が一九四〇年、四八年、
五六年、六七年、そして現在のパ
レスチナの地図をのせるだけで事
足りるでしょう。これらの地図を
一目見れば、米国の納税者は、イ
スラエルが毎回（の侵略で）どれ
だけ領土を拡大してきたのかをつ

過去 人質解放の努力を行って参りましたし、今後も、努力していきたいと考えています。ただ、米国が、力ずくの態度で、誘拐者に 対していふこと、どうも、これが 最大の障害になつてゐると、私は 考えています。それに、そういう 方法では、望むような結果を得る のは、むづかしいでしようね。

たとえば、TWA機乗っ取りの前です。ところが、この事件が起つて、世界の注目を集めることになり、米国から、シリアに對して（交渉仲介の）要請がありました。シリアは、何とか、TWA機の人質釈放に力を貸すことができまして、幸いではありました。ところが、この問題が片づいてから誘拐者に対する攻撃が再開され、

答・イラク人が、自らの政府を選択するということでしょう。イランが、どのような政府にすべきかで指図することはないと思いますよ。イラクには、新旧の政党がたくさんあります。民族主義的であり、進歩的な性格のものですね。私の知る限りでも、一六の政党があり、そのほとんどは古いものであり、宗教党ではありません。確か、宗教党は二党のみで、民族主義政党が一四党であったと思します。この一六党は、野党です。

これらの野党は、ガルフ戦後に結成されたものでもないのです。イラクの現政権に対して、戦争前から反対してきています。

ですから、これらの政党が自らの役割を果たし、イラクの問題については誰にも手出しをさせないようにするであろうと予測してい

イラクのイラン侵略支持に立たないのかということです。本気で言つていいのですよ。なぜなら、(交戦中のどちらかを)支持するということは、支援を与えることありますし、シリアには支持に必要な力がないのですから。

シリアは、侵略を支持しません。アラブ一ペルシア戦争を欲しないし、現在、そして次の世代に到つても残存していく敵対関係状況も欲しません。物事を客観的にとらえるアラブ人なら、誰もがこの視点で、ガルフ戦をとらえると思います。

次に、戦争をしかけたのが伊朗政府ではなく、イラク政府であるという事実、このわなに、私達アラブは、はまつてはならないのです。アラブ民族に敵対する勢力のみが、ガルフ戦の利益を受けていると、私は信じています。です

問　ソ連が対イスラエル関係を新しく追求していますが、なぜだとお考えですか？　これがうまくいけば、ソ連は、中東における和平作りの過程で、今までと異なる役割を得ることになるのでしょうか？

答　ソ連がイスラエルとの関係発展に動いているとする情報は、シリアには入っていません。御存知のごとく、シリアーソ連関係は良好ですし、ソ連が公正な立場に立ち、正義性のある和平作りをめざしていると感じています。

現在、この問題に深く立ち入ることはできません。が、ソ連－イスラエルの接触があろうとも、中東の和平建設過程において、これ以上、ソ連の役割が大きくなることですね。

問 …もしもですが、宇宙から、ある力が中東に来てですね、中東問題解決に一肌ぬいでくれるとしたら何をしてほしいでしょうか？

答 …確かに、それは、きっと大きな力でしよう。シリアが望むのは、どちらにも偏向しないではないということ。現在、シリアが支持するのは、どちらにも公平である立場です。

問 …そのどちらにも公平なる宇宙の力が、アラブーイスラエル紛争の解決をするとなったら、イスラエルを消滅させるとか、もつと小さな国にするとか、そういう風になるのでしょうか？

答 …イスラエルを拡大も縮小もしないでしょうね。その宇宙の力は、アラブとイスラエルの双方に助言を与えるか、どちらにも銃、戦闘機、数十億ドルの援助、こういったものを与えないかのどちらか

問・レーガン大統領が大佐の生命を狙つたとお考えですか？
答・自分の目でしっかり御覧なさい（と、爆撃の跡を示す）。レーガン

部ですね。当時、いつもよりもひんぱんに、私は出歩いていましたから。

問・爆撃後、大佐がうつ状態に陥られたとかいう報道がありました。

が非難される原因の一つでもあります。こういうことをやって、アメリカ人に何か得る所があるでしょうか？ こういうことをやれば友好関係が建設できますか？

答　このデマ宣伝を行つたレーガンと一味を裁いていないから、アメリカ人は非難されているのです。このデマ宣伝は、かのウォーターゲイト事件をもじのぐたちのものですよ。それから、殺人者、狂人であるレーガンを、この件（爆撃の爪あとを指示して）でも裁いては？

問 …この間おきた英—シリアの断交については？

問…ソ連は、従来通り、リビアをバ
ックアップしているでしょうか？
答…ソ連との関係、ソ連との友好に
満足しています。

問・
ハバシェ派は、リビアを作戦基地に使用しているのですか？

答　…原爆をおとされることはあらうともね。

問　この半年の発展で、米国がテロ
ル運動とみなす運動への大佐の支
持に変化がありましたか？

答　パレスチナ解放運動、世界中の
解放運動への支持を増大させまし
た。この侵略行為に応えるべく、
解放運動に対する我々の努力を二
倍にしました。

三バタン共産党声明主張
(一〇月二)

●民主エヌ

キャンペーンをうち破る力がある。
それにしても、植民地主義、歐米陣
営は、南アが行っている国家テロ、
スウェーデンのパルメ首相暗殺、モ
ザンビーケのサモラ・マシエル大統
領機墜落、そして米がニカラグアを
軍事封鎖している件等、こうした事
件を調査しようともしないが、解せ
ぬことだ。

英國から資産をひきあげ、英國の傲慢なやり方をうち砕こう。ちなみに、ヨルダンのリファイ首相のコメント

”シリアー英國関係の突然の悪化により、中東に恒久的、包括的かつ公正な和平を建設する努力が妨げられることになろう。まことにいかんである”

下にあります

証拠として、保存されている)
問・カダフィ大佐、米国ーリビアの
膠着状況は、どのようにしたら改善されるとお考えですか?
答・米国大統領が交代したら、両国
関係のみならず、米国と他の諸国
の関係も改善されるでしょう。現在
在、レーガンは、イスラエルの利益を
代表しており、国務相(彼がイスラエル人なのですが)の影響

ラベルをあちこちに貼っているものは全て、テロリズムに対する人民の解放運動なのです。アメリカ人が行っていること、これがテロル活動です。イスラエルの行うこと、これがテロルです。パレスチナ人、ニカラグア人、レバノン人が展開するもの、これは解放運動なのです。

問…しかし、ユダヤ人ももともとパレスチナにいたと思いますが……。
答…四八年前に、もう何千年も住んでいたユダヤ人なら認めます、もちろん。彼らは東方系ユダヤ人です。しかし、彼ら以外の連中は、すべからく侵略者でしかりません。アラブ人の（植民地主義に）抵抗する権利は、レーガンおよびレーガンの全権力よりも強いものです。

問…そのアラブが、もう数十年も内輪もめでもめていますね。不統一なのは、なぜ？

答…西側諸国の植民地化のせいです。アラブの祖国は二〇もの国に分断されたからであり、分断したのは植民地主義です。

問…アラブの問題は、アラブ世界の統一にかかっていますか？

答…もちろんですね。アラブの統一に米国が反対するのはなぜでしょ

う？これは、アブラハム・リンカーンの闘いがテロルであって、

誤っていたということになります。

アラブの土地の解放に、なぜ米国が反対するのでしょうか？これは、

ジヨージ・ワシントンの（反英）ズムであったということになつてしまいましょう。

アラブ統一とは、米合衆国のように、アラブ諸国を一つにするこ

とです。この目的に向け、私は、

ジョージ・ワシントンとアラハム・リンカーンを合わせたよう

役割を果たしているところです。

ラブ統一のために、指導性を發揮

●公開を要求する

マンデー・モーニング誌

一一月三一九日号「視点」コラム

今年四月のエル・アル機爆破未遂にシリア政府が関与しているのを立証する確証がもし英國にあるなら、英國は、それを公開すべきである。

現在までのところ、イスラエルのロンドン・テルアビブ便爆破を狙った

ニザール・ヒンダウイとダマスカスが関連ありと納得するに足る証拠は

公表されていない。

警察の報告によると、逮捕後、ヒンダウイは、次のように証言してい

ているとは知らなかつたというの

ある。麻薬密輸をしているつもりだつたと、ヒンダウイは法廷で証言した。陪審は、この証言を信用せず、

問…いかがでありますか？

答…人民には、自己防衛権があり、侵略に対抗する権利もあります。

●レーガンが忘却し去つた人質

違一・ジエイムズ・アブラズク氏

ロサンゼルス・タイムズ紙への投

稿

（氏は、元米国上院議員。現アメリカー・アラブ反差別委員会委員長。レバノン系アメリカ人）

一九八一年に大統領に就任した際、

四四四日目にイランから米国人質が

釈放された時、ロナルド・レーガン

が、新聞の手配写真で氣づくまで、

このヒンダウイ事件で、シリアが

槍玉に挙がっているが、明らかに、

証拠を備えた指弾たりえていない。

結局、ヒンダウイは、八一年にロ

ア大使館から若干の援助を受けた。

ところが、裁判になると、ヒンダ

ウイは、証言内容を変えたのである。

何も疑っていない「婚約者」に与え

たスーソケース（彼女が機内に持ち

こむことになつていて）に爆弾が入

っているとは知らなかつたというの

である。麻薬密輸をしているつもりだつたと、ヒンダウイは法廷で証言した。陪審は、この証言を信用せず、

●公開を要求する

マンデー・モーニング誌

一一月三一九日号「視点」コラム

今年四月のエル・アル機爆破未遂にシリア政府が関与しているのを立証する確証がもし英國にあるなら、英國は、それを公開すべきである。

現在までのところ、イスラエルのロ

ンドン・テルアビブ便爆破を狙つた

ニザール・ヒンダウイとダマスカス

が関連ありと納得するに足る証拠は

公表されていない。

警察の報告によると、逮捕後、ヒ

ンダウイは、次のように証言してい

ているとは知らなかつたというの

である。麻薬密輸をしているつもりだつたと、ヒンダウイは法廷で証言した。陪審は、この証言を信用せず、

●公開を要求する

マンデー・モーニング誌

一一月三一九日号「視点」コラム

今年四月のエル・アル機爆破未遂にシリア政府が関与しているのを立

証する確証がもし英國にあるなら、英國は、それを公開すべきである。

現在までのところ、イスラエルのロ

ンドン・テルアビブ便爆破を狙つた

ニザール・ヒンダウイとダマスカス

が関連ありと納得するに足る証拠は

公表されていない。

警察の報告によると、逮捕後、ヒ

ンダウイは、次のように証言してい

ているとは知らなかつたというの

である。麻薬密輸をしているつもりだつたと、ヒンダウイは法廷で証言した。陪審は、この証言を信用せず、

●公開を要求する

マンデー・モーニング誌

一一月三一九日号「視点」コラム

今年四月のエル・アル機爆破未遂にシリア政府が関与しているのを立

証する確証がもし英國にあるなら、英國は、それを公開すべきである。

現在までのところ、イスラエルのロ

ンドン・テルアビブ便爆破を狙つた

ニザール・ヒンダウイとダマスカス

が関連ありと納得するに足る証拠は

公表されていない。

警察の報告によると、逮捕後、ヒ

ンダウイは、次のように証言してい

ているとは知らなかつたというの

である。麻薬密輸をしているつもりだつたと、ヒンダウイは法廷で証言した。陪審は、この証言を信用せず、

●公開を要求する

マンデー・モーニング誌

一一月三一九日号「視点」コラム

今年四月のエル・アル機爆破未遂にシリア政府が関与しているのを立

証する確証がもし英國にあるなら、英國は、それを公開すべきである。

現在までのところ、イスラエルのロ

ンドン・テルアビブ便爆破を狙つた

ニザール・ヒンダウイとダマスカス

が関連ありと納得するに足る証拠は

公表されていない。

警察の報告によると、逮捕後、ヒ

ンダウイは、次のように証言してい

ているとは知らなかつたというの

である。麻薬密輸をしているつもりだつたと、ヒンダウイは法廷で証言した。陪審は、この証言を信用せず、

●公開を要求する

マンデー・モーニング誌

一一月三一九日号「視点」コラム

今年四月のエル・アル機爆破未遂にシリア政府が関与しているのを立

証する確証がもし英國にあるなら、英國は、それを公開すべきである。

現在までのところ、イスラエルのロ

ンドン・テルアビブ便爆破を狙つた

ニザール・ヒンダウイとダマスカス

が関連ありと納得するに足る証拠は

公表されていない。

警察の報告によると、逮捕後、ヒ

ンダウイは、次のように証言してい

ているとは知らなかつたというの

である。麻薬密輸をしているつもりだつたと、ヒンダウイは法廷で証言した。陪審は、この証言を信用せず、

●公開を要求する

マンデー・モーニング誌

一一月三一九日号「視点」コラム

今年四月のエル・アル機爆破未遂にシリア政府が関与しているのを立

証する確証がもし英國にあるなら、英國は、それを公開すべきである。

現在までのところ、イスラエルのロ

ンドン・テルアビブ便爆破を狙つた

ニザール・ヒンダウイとダマスカス

が関連ありと納得するに足る証拠は

公表されていない。

警察の報告によると、逮捕後、ヒ

ンダウイは、次のように証言してい

ているとは知らなかつたというの

である。麻薬密輸をしているつもりだつたと、ヒンダウイは法廷で証言した。陪審は、この証言を信用せず、

●公開を要求する

マンデー・モーニング誌

一一月三一九日号「視点」コラム

今年四月のエル・アル機爆破未遂にシリア政府が関与しているのを立

証する確証がもし英國にあるなら、英國は、それを公開すべきである。

現在までのところ、イスラエルのロ

ンドン・テルアビブ便爆破を狙つた

ニザール・ヒンダウイとダマスカス

が関連ありと納得するに足る証拠は

公表されていない。

警察の報告によると、逮捕後、ヒ

ンダウイは、次のように証言してい

ているとは知らなかつたというの

である。麻薬密輸をしているつもりだつたと、ヒンダウイは法廷で証言した。陪審は、この証言を信用せず、

●公開を要求する

マンデー・モーニング誌

一一月三一九日号「視点」コラム

今年四月のエル・アル機爆破未遂にシリア政府が関与しているのを立

証する確証がもし英國にあるなら、英國は、それを公開すべきである。

現在までのところ、イスラエルのロ

ンドン・テルアビブ便爆破を狙つた

ニザール・ヒンダウイとダマスカス

が関連ありと納得するに足る証拠は

公表されていない。

警察の報告によると、逮捕後、ヒ

ンダウイは、次のように証言してい

ているとは知らなかつたというの

である。麻薬密輸をしているつもりだつたと、ヒンダウイは法廷で証言した。陪審は、この証言を信用せず、

●公開を要求する

マンデー・モーニング誌

一一月三一九日号「視点」コラム

今年四月のエル・アル機爆破未遂にシリア政府が関与しているのを立

証する確証がもし英國にあるなら、英國は、それを公開すべきである。

現在までのところ、イスラエルのロ

ンドン・テルアビブ便爆破を狙つた

ニザール・ヒンダウイとダマスカス

が関連ありと納得するに足る証拠は

公表されていない。

警察の報告によると、逮捕後、ヒ

ンダウイは、次のように証言してい

ているとは知らなかつたというの

である。麻薬密輸をしているつもりだつたと、ヒンダウイは法廷で証言した。陪審は、この証言を信用せず、

●公開を要求する

マンデー・モーニング誌

一一月三一九日号「視点」コラム

今年四月のエル・アル機爆破未遂にシリア政府が関与しているのを立

証する確証がもし英國にあるなら、英國は、それを公開すべきである。

現在までのところ、イスラエルのロ

ンドン・テルアビブ便爆破を狙つた

ニザール・ヒンダウイとダマスカス

が関連ありと納得するに足る証拠は

公表されていない。

警察の報告によると、逮捕後、ヒ

ンダウイは、次のように証言してい

ているとは知らなかつたというの

である。麻薬密輸をしているつもりだつたと、ヒンダウイは法廷で証言した。陪審は、この証言を信用せず、

●公開を要求する

マンデー・モーニング誌

一一月三一九日号「視点」コラム

今年四月のエル・アル機爆破未遂にシリア政府が関与しているのを立

証する確証がもし英國にあるなら、英國は、それを公開すべきである。

反ラテンアメリカ人民政策、とりわけニカラグア人民への帝国主義政策はたまた、南アフリカ人民に対するボタの人種差別主義にも似て、かつてはアラブの人民、アラブの土地を植民地支配してきた英帝の反動サッチャード政権は、再び、「反テロ」「反アラブ民族解放闘争」の帝国主義キヤンペーンにおける役割を活性化したのである。

今日、帝国主義同盟共は、核戦争—I S D I の恫喝をもって、帝国主義支配を再確立せんと画策している。奴らは、世界平和を追求してなどいないので。今年五月の「東京サミット」来、奴らは、第三世界人民に対するより苛酷な抑圧、侵略、搾取により、自らの命運に躍起になつているのである。なぜなら、世界中の人民の解放、平和を求める闘いが、世界の人民連帯として、奴らを最終段階まで追いつめているからである。

帝国主義同盟共、世界中の津々浦浦で、人民の反撃を受けることを覚悟せよ。アラブ人民に敵対する英・米・カナダ帝国主義の動きを粉砕せよ！ 世界中で、人民連帯により、反帝行動を強化しよう！ 帝国主義のS D I 政策を打倒しよう！

激動の中東

激動の中東 ドキュメント

一九八六年一〇月二日
（木）一月九日

一〇月二日（木）

レバノン 経済

レバノン税管局長が「ペイルー
トリポリ、サイダ、ジュニエ港
正常に戻った」と声明。
（編注：第一回「対話委員会」
「九月末日までに、不法港閉鎖
各ミリシアは港をレバノン当局
理に引き渡す」ことが決定され
いた。この決定が遂行されたと
うことだが、実情は、スムース
はない。）

トリポリ、サイダ、ジュニエ港
正常に戻った」と声明。
(編注) 第二回「対話委員会」
「九月末日までに、不法港閉鎖
各ミリシアは港をレバノン当局
理に引き渡す」ことが決定され
いた。この決定が遂行されたと
うただが、実情は、スムース
はない。)
一〇月三日(金) 日高同志虐殺十
年
レバノン
・南部反イスラエル潮流内矛盾
ラノヤディエ・チヤノ・ウガ

- ・南部反イスラエル潮流内矛盾
ラシャディエ・キャンプ攻防戦
介のために、（駐ダマスカス）ラン大使がスール入り。
- ・アサド大統領、タイム誌主幹とシリア

1986年12月31日 第18号 月刊 中東レポート

が、その際に、レーガン氏のこういうやり方が現地で苦々しく受けとられているということを実感させられた。レーガン氏の「静かな外交」についてハーフェズ・アサド大統領に意見を伺ったところ、静かすぎて自分の耳に届かないと言っていた。早い話、米政府の誰一人として、米人質問題で、アサド大統領に打診していないというわけである。それで、アサド大統領は、神の党に圧力をかけて、米人人質釈放へ向けた努力を続けてみようと言つてくれてはいる。しかし、レバノン氏と同じく、アサド氏の発言以上に、過去シリアの援助のおかげで、TWA機の乗つ取り時の人質、ローレンス・M・ジエンコ神父、ベンジャミン・ウェイア等の釈放が実現したのに、シリアに対しても礼の一言もないばかりか、米のマスコミや政府からよつたかって「シリアの袋叩き」にあされたてきた、こうシリア政府の人々が感じているように思った。

彼にも米人質釈放の骨折りを
んでみたところ、「できるが、や
たくないですね」とのこと。ベリ
は、八五年六月、TWA八四七便
乗っ取られた直後、当時米国国家
全問題長官のロバート・マクファーレンから人質釈放のための協力を要
められたそうである。レバノンで
政治的地位が危険になるのも承知
ベリ氏は無条件にひきうけたそう
ある。

レバノン人、とくにシーア派の人々は、決して忘れてはいない。マクファーレン氏が、ベリ氏の二条件をうけおつたので、ベリ氏は、乗り出し、結局 TWA 機の人質の釈放がかちとられたのであった。

レーガン政権は、この介入によりベリ氏がどんな危い橋を渡ったか、十分知っていたのである。ところが、釈放が成功したとなると、マクファーレン氏は、アマルのリーダーに何も約束したことはないと新聞で語った。ベリ氏には、その後音沙汰なし。という有様である。「それから、ハイジャックの頭目は、実はベリであった」ということにされ、マクファーレン氏を含む米政府の誰一人としてその嘘を批判する人もいませんでした」と、ベリ氏は言った。

ダマスカスで、アブダル・ハリム・カッダム副大統領に会った時、「米政府が長年反アラブ政策をとってからというもの、アメリカの友人として知られた人々の運のつきが悪くなっています」と言っていた。

どうも、これは好転しそうにもない。イスラエル支持という事実はあるが、アラブ世界では、米国は高い尊敬を受けている超大国の一つであつたのである。が、八二年のイス

ラエルによるレバノン侵略を機に中東における米国の影響力を排除んとする武装グループの標的になってしまった。この戦略の悲劇的な部が、関係ない米国市民に対する攻撃の継続なのである。

日本赤軍声明 アラブ人民に対 カナダ帝国主義

卷之三

撃の継続なのである

一四二

んとある武装グルー

中東における米国

ラエルによるレバノン

1

ラエルによるレバノン侵略を機に中東における米国の影響力を排除しようとする武装グループの標的になってしまった。この戦争の悲劇的な

- 八六年度一九月度の生活費指数上昇率一二%（予測を一・九%上回る）。
- レバノン
- ガルフ戦
- 国連で、総長がUNIFILとレバノン国軍の同時配備を提案し、このために、新たに一億ドルのUNIFIL予算請求（レバノン南部におけるレバノン国権の一定の確立方向）。
- イラン南部で、イラン民間機が乗客をおろしている所をイラク機が

・ヒンダウイ裁判（ロンドン）本人の証言三日め。モサド（イスラエル諜報機関）陰謀説を初めてうち出す。根拠①エル・アルが「摘発した」トランクは、自分がガールフレンドにやつたものではない②麻薬密輸をうけおつただけであり、爆弾が入ったものとは知らないかった（トランクの件）。

ガルフ戦

- ・イラク、バグダッド郊外にイランのミサイル被弾を確認。
- ・トルコ外相、「イラク侵略の野望

- ・ レーガン、中間選挙キャンペーン「SDIを放棄したら、第二次大戦勝利の鍵であったレーダーを放棄するに等しい」
NATO軍司令官のレイキヤビク会談への不満を、NATO総長と共に、言いくるめる。
- ・ ソ米サミット前にも、後にも報告したはず。軍人は軍事問題に専念すればよし。残りの問題は、政治家の専門領域なり

・ペレス首相、最後の閣議。
エルサレム闘争に關し、ラビン戦
争相が報告。空軍司令官、參謀總
長、軍情報局局長参加の機密會議
(政府軍事評議会)。

モザンビーク

・マシェル大統領等、モザンビーク
政府使節搭乗機、南アーモザンビ
ーク国境で、墜落。パイロット以
外全員死亡(六九年にも、當時の
フレリモ議長モンドラネ氏が小包
爆弾で暗殺された)。

一〇月二〇日(月)

オランダ
・女王夫妻、本日からイスニ
問(一週間)。

米帝
・対テロ問題大使 L・ポール・ブレ
マー三世任命を上院が承認。

と声明（クルド区のキルクーク油田をめぐる問題。クルド族の反イラク政府叛乱への中立表明）。

・サウジアラビアのアブドラ皇太子、
シリアル訪問。

● ジュネーブで、OPEC会議。生産割当量削減を調整し、原油価格を下りに歯止めをかけるため。

イスラエル

モロッコ

エジプト

・ ハツサンⅡ世、アイヴォリー・コートに對し、駐イスラエル大使館をエルサレムに移管させる方針堅持を要請。

・ 米からF-16戦闘機四機納入受け
る。計二四機になる。

一〇月一二日（日）
レバノン
南部「キャンプ戦」
難民キャンプ調整委員会（P.N.S.F.、アマル、シリア軍オブザーバー）の努力で、アマルがキャンプ内集会で、内部矛盾はイスラエルを利するのみ味方内の矛盾解決努力で、安定を作ろう」と強調。
ベイルートでも、ベリージュンブルート会談。会談後、ベリは①西ベイルート内の虐殺問題、②東ベイルート内の虐殺問題、③南部レバノン問題、④国民対話問題を討議したと声明。

- ・イスラエル
- ・ペレス－シャミル首班交代つめ終了。ただし、具体条件未公表。ペレスが主張しているとされるのは以下。
 - a、リクード連合の自由党党首モーダイの入閣反対
 - b、ペレス側近を駐米大使に任命せよ
 - c、シャミルの任期終了直前数週間に前に、再びペレスが首相をつとめる
- ・西岸のベツレヘム、ヘブロン両市近くの地下水資源をエルサレム近郊のセツルメント用に汲み上げる

イ、OPEC恒常的生産割当量決定につき、サウジ分大幅拡大要求
ロ、原油価格値上げ目標を一七〇九ドルにすべき
一〇月一四日（火）
レバノン
・東西ベイルート交戦。死者二名。
シリアのアサド大統領インタビュ
ー（タイム誌）公表さる。
イラン
・八六年六月にCIAスパイ容疑で
逮捕された米国人技師、有罪を認
める。

・ワインバーガー、パキスタン訪問
了。インド入り。
・明日一五日、イスラエル毎軍ヒ

イスラエルとその手先のしわざと糾弾。また、「対話委員会」次回会合では、港湾問題をトップ議題とすることが重要と指摘。

- ・アブ・ニダル派で、イスタンブールのシナゴーグ攻撃鬭争関連者と目されるアラブ人五名、ロンドンから自放される見込み。テロリスト

- ・南部レジスタンス
レジスタンスの攻撃に対し、バス
バイア区にイスラエルが増援部隊
を展開させます。

計画公表（水資源略奪）。ソ米サミット

- ・一九九〇年代に、地中海第六位の海軍国建設計画公表。六〇／八〇億ドル予算で、まず潜水艦二隻を建設。受注は、仏、伊の造船会社（NATO国防相会議了（スコットランド））
 - ・ギリシア、デンマークを除く一四カ国は、SDI支持、ソ米会談におけるレーガンの展開支持を声明発表。
 - アンゴラ
 - ・UNITAのサヴィンガ、仏着。
 - 一〇月二八日まで滞在。欧州議会の一〇〇人の右翼議員と会見。
 - 南ア
 - ・米独占企業の「公式撤退」政策について、「株を南ア子会社に売却したのみであり、南ア経済への影響は少ない」と豪語す。

1986年12月31日 第18号 月刊 中東レポート

- ・「S L A」英語放送によると、「捕虜になつたイスラエルパイロットの身柄は、ザハレ近くの村に移送され、シリア軍情報部にひき渡された」と、反シリア・キャンペーン。
 - ・アマルは、「パイロットはベイルートにつかまえてある」と声明。イスラエル立。モダブは無任所相として入閣。
 - ・シユルツは、「西岸入植攻勢は不法」と、シャミルの政策を牽制。「嘆きの壁」闘争を口実に、反テロ・キャンペーン。三人のパレスチナ人逮捕し、「イスラム聖戦機構」メンバーと断定。
 - ・ペレスも「ヨルダンは、今年のフセイン声明来、P L Oとの関係を縮小しており、(七月にもアンマンのP L O事務所閉鎖など)、態度を変えていない(ヨルダンは、イスラエルに敵対していない)」
 - ・バヌヌ技師拉致問題
ニューズ・ウイーク誌によると、
「イスラエルの核兵力を内部告発したバヌヌ技師は、ロンドンで失踪していたが、モサドの女スパイ

- 「S L A」英語放送によると、「捕

に誘われて、ヨット旅行に出たところを、モサドに拉致され、イス

- スレイマン・ハタル烈士闘争の賠償金とり立て交渉のためのイスラエル使節団、カイロへ出発。
 - 米帝
 - コール(西独)の公式訪米、スタート
 - G M社、南アから撤退を決定(米獨占では、対南ア投資・操業で、一番)。
 - サウジアラビア
 - ファイサル外相、チュニジアのブルギバと会談。
 - 一〇月二一日(火) 国際反戦デー レバノン
 - 人質問題
 - A U B教授マタル氏(レバノン人クリスチヤン)、五ヶ月めに釈放される。
 - イスラエルのパイロット捕虜問題ベリ氏、モンテ・カルロ放送に対し、「シーア派が捕えている」と初めて、公式に発表。ベリ氏は、「イスラエルが捕えているパレスチナ人、レバノン人捕虜、および「S L A」が捕えている一〇〇余名のレバノン人の釈放を要求した」とも語る。

米帝
• ニューヨーク、ワシントンのPL

- ・ニューヨーク、ワシントンのPL
O「シンパ系」の事務所閉鎖。
イスラエル
 - ・パイロット人質問題につき、ラビ
ン発言。
“このパイロットの生命の安全、
無事帰還に対し、アマルが責任を
負っている。現在、どこに捕えら
れているかは、不明。外交ルート
で、釈放交渉中。また、ハジビッ
ラーも、半年前にレバノン南部で
捕獲したというイスラエル兵三名
の身分証コピーを発表している”
 - ・文化
米俳優のジャック・レモン、イス
ラエル入り。アラブ・ボイコット
・リストに載せられる(イスラエ
ルは、観光、映画産業の振興にも
力を入れている)。
 - ・反テロ・キャンペーン
 - ・仮情報官、イスラエル訪問。この
後、シリア、アルジェリア、モロ
ッコを回る予定。
 - モザンビーグのマシェル大統領「事
故死」問題
 - ・ハラレ(ジンバブエ)で、南アの
謀殺であると怒る数千人の群衆が
南アの外交施設、南ア航空に焼き
うちかける。

・一墜落」したとされた機には、A
N C軍司令官も同乗していた（B）

- ・「墜落」したとされた機には、A N C 軍司令官も同乗していた（B C）。
 - ガルフ戦
ニカラグア
 - ・一〇月初めに撃墜したC I A の対白軍輸送機パイロットに対し、三四四年の実刑判決。
 - 一〇月二二日（水）
レバノン
 - ・南部「キヤンプ戦争」スタート
アマルのミリシアが殺され、ラシヤディエ工包围戦に発展。
 - ・国會議長選挙
フセイニ氏、再選さる。
 - ・シエラ・レオネ使節団、イスラエル入り。
ガルフ戦
・イラン外相、チュニス入り。
・シャミルの就任演説骨子
「領土上の譲歩しない」（ムバラク、これを批判）。
P L O
・アテネで二〇日に車爆弾で殺されたのは、P L O 海軍司令官であることを公表。

- ラエル軍将軍が「S L A」指揮を
ラドからひきついたこと。
- 反シリア・キャンペーン
- ・ルクセンブルグでEC外相会談。
- 英外相提案のシリア制裁案不成立。
- 仏、西独、伊、スペイン外相欠席。
- 外相代理も、英案に反対。
- 仏-イラン
- ・パリで、一〇億ドルローン返済交
渉つめスタート。
- サウジアラビア
- ・内相ナイン皇子、仏へ公式訪問(四
日間)、スタート。シラク主催の晩
さん会で、次のように仏のイニシ
アチブを期待。
- ・仏、欧洲が、アラブースラエ
ル紛争について速かに、かつ均等
な新指導性を發揮してほしい。そ
れは、パレスチナ人が、自らの国
に建国する権利を保証するもので
あってほしいもの。(初めて、P
LO代表が仏の公式夕食会に
招待された)。
- サウジ内相は、仏内相と、麻薬対
策、旅券係官訓練、公安維持につ
き討議する予定。さらに、通信、
輸送、道路安全対策分野にも協力
拡大させたい意向。

米大占拠記念集会で、「昨年、米が兵器／人質交換秘密交渉をもちかけてきたが、拒否した」と暴露。中曾根も書簡でイランへの圧力をかけていたこと、明るみに出る。

- ・上院中間選挙、下院補欠選挙投票日。

南ア

- ・ボタ内閣改造。法務／公安相、情報副相を更迭。

- ・米黒火リーダーのジャクソン師、「マシエル大統領の死亡に関しては、南アが直接関連している情況証拠がある」と発表。

ニカラグア

- ・反革命ゲリラへの物資輸送中撃墜され逮捕された米人スピパイロ

コロラド

- ・ソーラーは、裁判で恩赦を要求する見込み（同パリオット弁護士＝元米検事総長）。

一月五日（水）
レバノン

- ・ペイントの「キャンプ戦」昨日から激化。主な戦場は、ボルジ・アル・バラージナ・キャンプ。

- ・上院選で、共和党少数派に転落（民主党一五四議席、共和党一四六議席）。

米

クウェート
・八六年一月開催予定のイスラム諸国会議参加招請をムバラクに出していた。七九年来、資格停止処分中（エジプト通信による）。

- ・ヨルダン首相、ダマスカス訪問。
反シリリア・キャンペーン
- ・米国防次官、イスラエル入り。
・シナイ監視軍の米部隊増強。
・ベルギーも、大使を本国召還。

十九周年
一月七日（金）ロシア十月革命六

- ・反シリリア・キャンペーン

- ・シラク、「ヒンダウイ事件は、イスラエルのモサドとシリリア反政府分子の陰謀だと思う」とする西独

- ・ストラッセルのパレスチナ人捕虜放の事実公然の陰謀だとと思う」とする西独首相、外相の意見を公開（ワシントン・タイムズ紙とのインタビュー）。

- ・ペイント、南部の「キャンプ戦」

- ・地中海に（昨年、現役復帰。今年周航の途中）。

- ・米帝の対イラン秘密交渉

- ・表。先週、組合員の乗った船がエイラート（イスラエル）からイランへ米製武器を運んだ。米製という標示を見たわけではないが、

海員は積荷の何たるかを知るものだ

だ

昨日は、前イラン首相バニサドル氏が仏TVで、八五年九月に米機

が軍事部品をイランへ輸送してき

たこと、さらにずっと前にも同様

の輸送があった事實を公開。

・イラン国会議長が、「米国が対イラン武器禁輸をとくなら、レバノンの人質問題に仲介の労をとつてもよいのだが」と語る。

一月八日（土）
レバノン

- ・ペイント、南部の「キャンプ戦」

- ・アマルが、三週間前に、一四〇人のパレスチナ人捕虜放の事実公表。同筋によると、「キャンプ戦」（この六週間）での死者は九〇人以上。

- ・ペイント、南部の「キャンプ戦」

- ・アマルが、三週間前に、一四〇人のパレスチナ人捕虜放の事実公表。同筋によると、「キャンプ戦」（この六週間）での死者は九〇人以上。

一月九日（日）
シリア

- ・シリア領空近くに「演習」機接近。

- ・シリア・領空閉鎖。

一月十日（月）
イスラエル

- ・ペイントをイスラエル国内に拘留、逮捕していることを、初公表。

- ・ペイントをイスラエル国内に拘留、逮捕していることを、初公表。

一月十一日（火）
エジプト

- ・ロトフィ首相解任。シドキイ（八年來、会計監査院院長）が後任に。

一月十二日（水）
ガルフ戦

- ・イラクのクルド愛国連盟、クルド

- ・中央イラン選出議員二名、軍人數名逮捕を公表。「反政府風潮を煽る」と、「ペレスが武器取引の仲介を直接許可した」（イスラエルの

- ・ニューズ・ウイーク誌の暴露によると、「ペレスが武器取引の仲介を直接許可した」（イスラエルの

- ・仲介の責任）。

エジプト

・一〇月度、反政府活動で逮捕されたイスラム原理主義運動「活動家」は、二二〇名に。

・アンマンで、「西岸開発五カ年計画国際会議」スタート。一〇日まで、世界、アラブから三二代表が参加。PLOはボイコット。

ヨルダン

・アンマンで、「西岸開発五カ年計画国際会議」スタート。一〇日まで、世界、アラブから三二代表が参加。PLOはボイコット。

ヨルダン